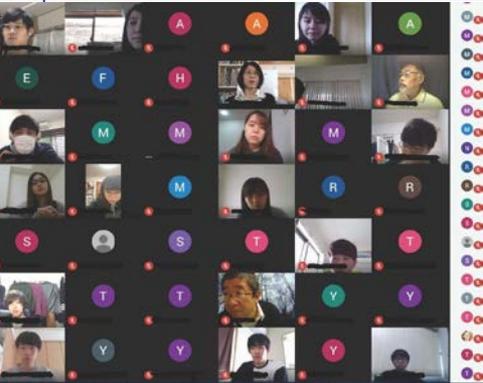




国立情報学研究所
「4月からの大学等遠隔授業に関する
取組状況共有サイバーシンポジウム」



ALを止めない！
桐蔭横浜大学の目指すオンライン授業とは

森 朋子

- 専門 学習研究, 学習理論
- 学歴 ケルン大学修士, 大阪大学修士・博士
- 所属 桐蔭横浜大学 副学長, 教育研究開発機構 教授
桐蔭学園小学校校長, 幼稚園園長
⇒教育改善・開発, 全体のマネジメント

●その他のお仕事

- 文科省中央教育審議会教学マネジメント特別部会委員 (~2019)
- // 大学再生加速プログラム委員
- // 学生調査実施に関する有識者会議委員
- 広島大学高等教育研究センター研究員
- 東京理科大学AP事業アドバイザー
- 金沢大学AP事業外部評価委員
- 大阪府立大学 //
- 成城大学外部評価委員会など
- 島根県立松江東高等学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営委員
- 兵庫県立加古川東高等学校SSH運営指導委員
- 徳島県立城北高等学校アドバイザー
- 静岡県立静岡城北高等学校アドバイザー
- 高槻中学校・高等学校アドバイザー
- 兵庫県教育委員会, 滋賀県教育委員会
徳島県教育委員会, 愛媛県教育委員会
香川県教育委員会, 東京都教育委員会
ほか全国の高校で各種講演



**桐蔭横浜大学
コロナ禍 初動の対応**

初動 コロナ禍中の動き

全授業オンラインにて通常授業実施

- ・ 90分×15回授業⇒100分×13回+50分振り返り
- ・ 6月より一部実験・演習科目を対面

背景：新入生のオリエンテーション済（4/3, 4）
⇒オンラインでの授業実施が可能

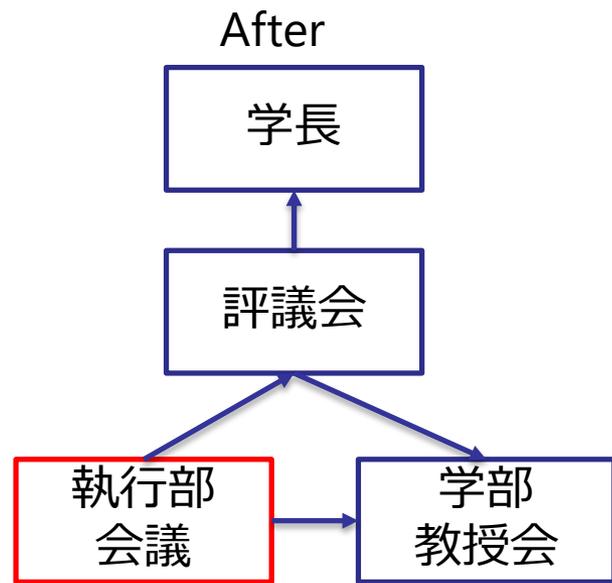
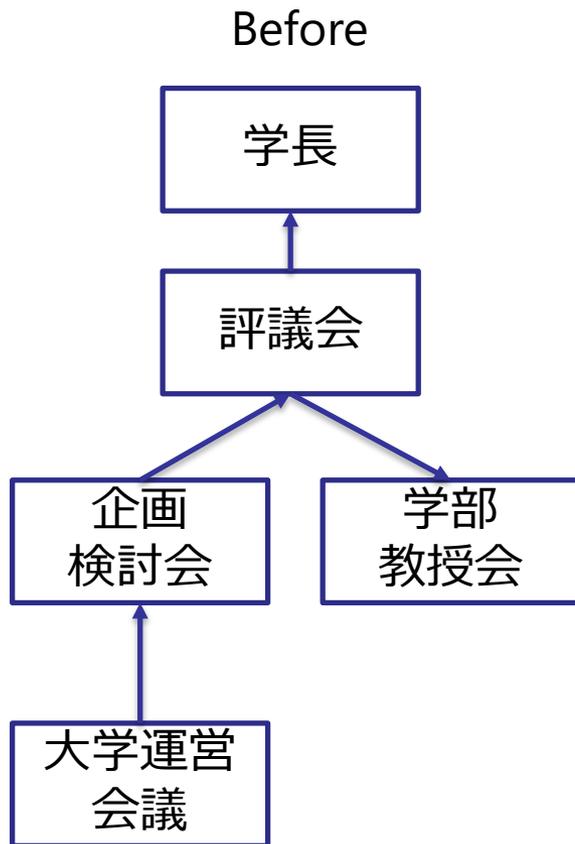
教員

- オンライン授業フレームワークの提示4/8
- オンライン授業支援の強化
- 学生支援の強化
- 新フレームワークの提示

学生

- 『在宅中の生活・学習に関する一斉調査』
第1回目 4月13日
- 『在宅中の生活・学習に関する一斉調査』
第2回目 6月30日

意思決定プロセスの変更

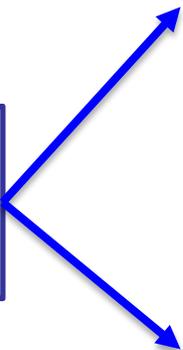


当初は『コロナ会議』

- 週1回
- 学長, 副学長, 学部長, 事務局, 各センター事務局
- 3密を回避し, 対面会議

オンライン授業の2つの種類

学生とリアルタイムでの
コミュニケーションが
必要？



YES (同期型授業)

メリット

- ✓ 同じ時間を共有するのでライブ感を得られる。
- ✓ 質問や課題などにすぐに対応できる

デメリット

- ✓ 時間と場所が拘束される
- ✓ 学生のネット環境に大きく依存する

NO (非同期型授業)

メリット

- ✓ 学生が自身の生活パターンの中で自由に参加できる
- ✓ 時間や場所にとらわれない

デメリット

- ✓ 相手の反応がわかりにくい
- ✓ 管理しにくい

方法

学生とリアルタイムでの
コミュニケーションが
必要？

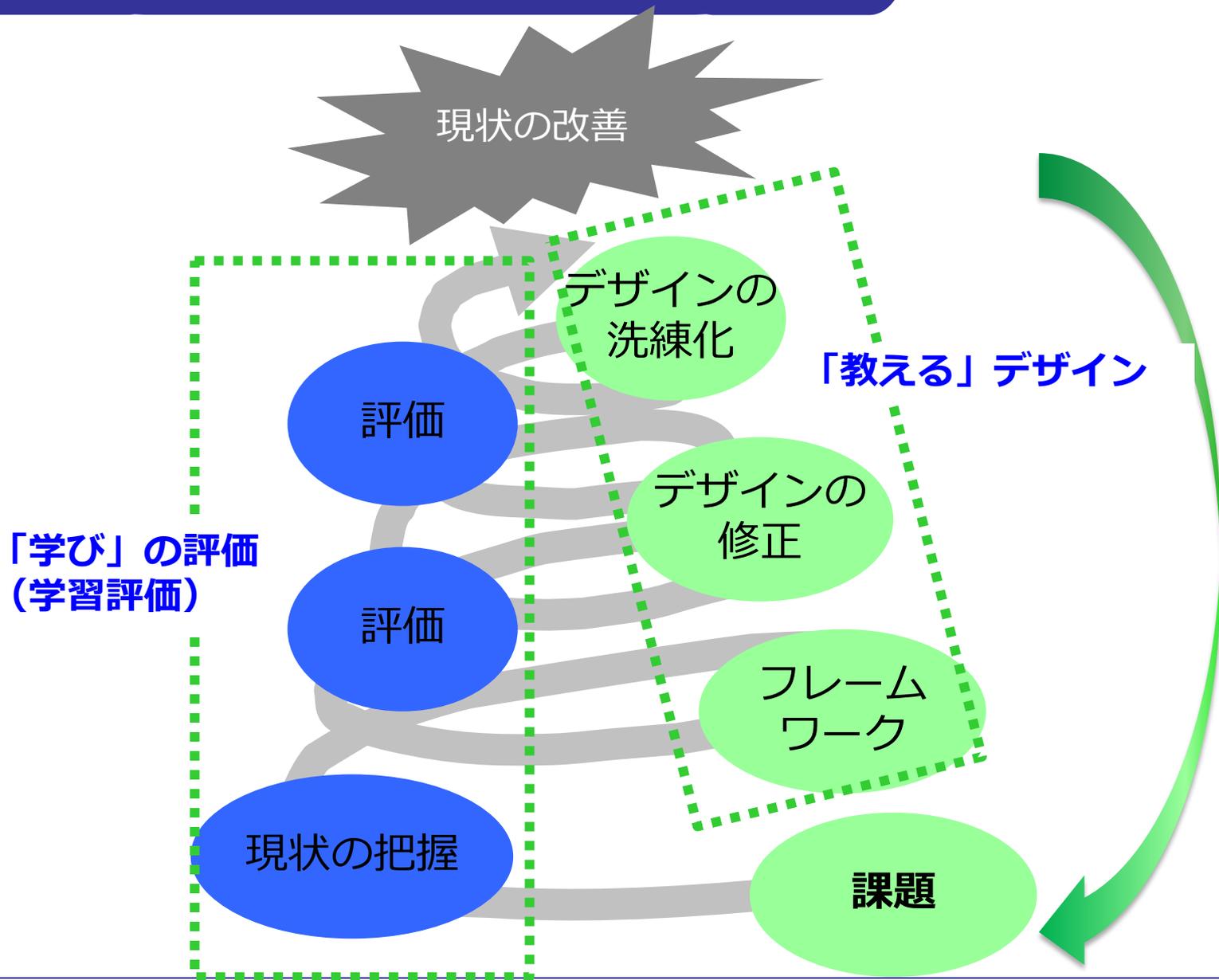
YES（同期型授業）

- 1 Google ハングアウトMeetの活用
- 2 Zoomの活用
- 3 Googleスプレッドシートを活用

NO（非同期型授業）

- 4 レポート等の提出＋フィードバック
- 5 パワポを動画化＋＼
- 6 自宅・教室での動画集録＋＼
- 7 無料公開されている動画を活用＋＼

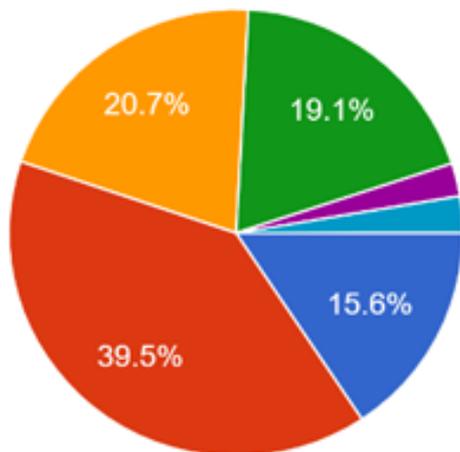
アセスメント（教育と学習のメタ循環）



教員の自律性 選択肢を作る+支援

授業をオンライン化する場合、4つの推奨型のどれを選択しますか？

377件の回答



- ① 同期型 ゼミなど少人数の対面授業
- ② 非同期型 課題提示+フィードバック
- ③ 非同期型 動画+課題+フィードバック
- ④ 混合型 事前課題+ディスカッション
- その他のオンライン授業デザイン
- オンライン授業の実施が不可能

2 Googleドライブにアップロード

mp.4など一般的な形式に保存されている動画を、大学と契約しているGoogleを活用してGoogleドライブ上に置き、それを共有する方法。手順は以下のとおりです。

1. 桐蔭のアカウントでGoogleにログインする
2. Googleドライブを開き、ファイルをアップロードする
<https://support.google.com/drive/answer/2424368>
3. アップロードした動画を共有する
<https://support.google.com/drive/answer/2494822>
4. 共有相手（学生）の権限を「閲覧」に設定する
<https://www.youtube.com/watch?v=q21TFKfd0vw&t=1>



2020年4月08日

桐蔭横浜大学
オンライン授業の4つの推奨型



各学部に
ICT委員を配置
↓
教育研究開発機構

桐蔭横浜大学 オンライン授業実践

TOIN UNIVERSITY
OF YOKOHAMA

林田先生：ゼミに関しては、学生のインターネットの容量負担を考慮して、アルタイムでのミーティングは20分以内で終わるようにします。ゼミ生個人への連絡事項はメール、全体への連絡や課題のやり取りはGoogle classrocを活用しています。定例のゼミは週に1回ですが、相談のある人や手伝ってほしいことのある人は、私にメールで連絡をいければMeetで顔を見てサポートが受けられるということを知ってもらって、安心感を持ってもらえるようがけています。

オンライン授業の様子



受講生の感想

参加した学生の声：池田奈穂さん（4年生）

自宅で先生の話が聞けるという手軽さがよかったです。移動ができない状況下でも自宅で安全に修学できます。ただ私の場合ですが、通信環境と家庭環境にやりやすさを感じました。特にオンライン授業を受けると、時間が重なってしま...

オンライン授業の様子



取材班：授業デザインの工夫があれば教えてください

蓮沼先生：授業の最後には、時間をとって、Google Formの「段落」機能を使って、授業の内容を数行でまとめてもらい、感想や不具合が生じた点も書いてもらっています。まとめてきた内容については、言葉の使い方や内容理解度について、個々にフィードバックを行なっておりますが、これは紙ベースのレポートよりも手間が少ない印象です。対面授業になっても、このフィードバック機能の使いやすさから継続して使っていきたいと考えています。

オンライン授業の様子



受講生の感想

小林美里さん（4年生）

遠隔授業は対面の授業やゼミとの大きな相違はなく、より質問しやすい雰囲気だと思います。通信状況によって、音声や映像が乱れるのは対面授業と比べ、不便なことがあります。

受講生の感想

田中高士さん（2年生）

はじめてのオンライン授業でしたが、確認テストで正解を考えることでより深く授業の内容を理解することができ、振り返りで質問した事項を先生がピックアップして解説してくれて、疑問点が解消できたのが新鮮でした。また、オンライン授業では、動画をも併用するため、レジュメの文面だけでは理解しにくいところがわかりやすく感じました。

内藤倫太郎さん（2年生）

オンライン授業は初めてだったのですが、自宅でも学習できる点が便利だと感じました。先生の声のトーンやスピードも聞き取りやすく分かりやすかったです。動画とレジュメの役割がすみ分けされており、基本的な内容を動画で確認し、詳しい解説をレジュメで確認できるようになっているので意外にもスムーズに理解



コロナ禍 発展的改革

ブレンド型学習

■ 大人数講義の課題

学習の観点から

- 学生の集中力の欠如
- 受け身の学習
- 知識の不活性化
- 活用する時間の不足
- 教員による一方向的なマス教育になりやすい

対面授業の観点から

- 通学し、大人数講義を「聞く」ことの意義は？
- 自らのペースでの学習が困難
→教員が配慮しても全員に対する個別性は不可能

■ ウィズコロナ, アフターコロナ期の新たな学び

- (講義+演習→講義)の循環型
- 社会との接続⇒知識の活用
- 個別最適化⇒学生の学習方法への嗜好
- アクティブラーニングの組織的な導入
⇒個-協働-個⇒知識の習得と活用

ブレンド型カリキュラムの構築

個別最適化(個) × アクティブラーニング(協働)
オンライン × 対面
インプット × アウトプット
専門知 × 統合知

■ 非同期型オンライン授業 (9回分) 講義動画+課題提出+フィードバック

授業でのしかけ

- 講義動画の配信
- 毎回行う理解度のチェック
- それに関するフィードバック
- 小テストによる評価

学生へ影響

- 個別最適化—学習者中心
→繰り返しの学習
→学生のペース・嗜好性

継続的な学習支援

■ アクティブラーニング・ タームの導入 (4回分)

授業での仕掛け

- 社会的な課題への取り組み
- グループワークの導入
→資質能力の育成
- プレゼンやレポートによる評価

■ 複数授業のユニット

授業での仕掛け

- 社会的なテーマになりえる複数の授業を統合
- 知識の活用および統合を目指す

クロージング

本学の特徴



- 迅速な判断
- 学生の学びを見取るアセスメント
- アセスメントを併用したオンライン授業導入
- 学習の嗜好性 = オンラインは個別最適化のチャンス
- 対面とオンラインのメリットを組み合わせたブレンド型
- それを活かすカリキュラム改革



ご清聴ありがとうございました
morit@toin.ac.jp